国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料１０

令和５年１月11日

学び続けるコミュニティ
2023　春　教育実践福島ラウンドテーブル
～NITS・福島大学コラボ研修～

毎年、教師が学び続けるためのアクティブ・ラーニングとして、新しい教員研修の形を目指しラウンドテーブルを継続開催しています。通常は、本学の講義棟で行っていましたが、今回も前回（2022夏）同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前・午後ともオンライン（Zoom）で実施します。

午前は、基調講演になりますが、パフォーマンス評価を効果的に活用しつつカリキュラム・マネジメントを進めるための教員研修の在り方について、西岡加名恵 氏（京都大学大学院教育学研究科・教授）より、「子どもたちの豊かな学びを実現するための『教育評価』― パフォーマンス評価をどう活用するか―」というテーマでお話をいただきます。

午後は、ラウンドテーブルになりますが、校種、職種を超えて少人数のグループごとに、院生等の報告をもとに意見交換を行っていきます。これにより、実践上の成果だけでなく、それぞれが抱える問題等についても語り合い、そうしたなかで、問題解決のヒントを得たり、教育に対する新たな気づきや関心を高めていく機会になっています。

このラウンドテーブルは、本学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻（教職大学院）の院生による研究報告の場であるとともに、県内外の教育関係者における「学び続ける教師コミュニティ」形成の場になっているといえます。

◆ 日 時：令和５年２月18 日（土）10：00～16：00
◆ 方 法 ：オンライン（Zoom）開催
◆ 主 催：福島大学大学院人間発達文化研究科
◆ 共 催：福島県教育委員会
◆ 後 援 ：福島県市町村教育委員会連絡協議会 ほか

詳細につきましては、別紙チラシをご参照ください。

（お問い合わせ先）
人間発達文化学類支援室
電　話：024-548-8103
FAX：024-548-3181
メール： ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

学び続ける教師コミュニティ

2023 春 教育実践福島ラウンドテーブル

国立大学法人 福島大学 Fukushima University

令和 3 年 12 月に策定された第 7 次福島県総合教育計画（令和 4 年度～12 年度）では、「学びの変革」の推進が掲げられており、一方通行の画一的な授業から、子どもたちの個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びを取り入れていくことが求められています。また、そのためには学校の在り方の変革も同時に進めることが必要とされています。こうしたなか、教員、教育関係者、教員を目指す学生は、常にこのような教育の動きに関心をもち、子どもたちの豊かな学びのために、学校の役割や授業の在り方等を再考し、実践に裏打ちされた教育理論を構築していくことが重要になります。

福島大学大学院人間発達文化研究科では、福島県教育委員会との共催により、「学び続ける教師コミュニティ」創りを目指し、院生、教育関係者及び関心のある者が集い、院生の実践研究報告をもとに交流し、県全体の教育力向上を図るべく全県的な「教育実践福島ラウンドテーブル」を開催してきました。ここ数年はオンライン開催となっていますが、移動時間を短縮できる等の利点もあり、自宅で気軽に参加することができます。2023 春開催の会に多くの方がご参加されることを願っています（写真：2022 夏ラウンドテーブルより）。

2023
2・18（土）
－10:00～16:00－
オンライン（Zoom）開催

主催　福島大学大学院人間発達文化研究科
共催　福島県教育委員会
後援　福島県市町村教育委員会連絡協議会　福島県都市教育長協議会　福島県町村教育長協議会　福島県小学校長会
福島県中学校長会　福島県高等学校長協会　福島県特別支援学校長会　福島県国公立幼稚園・こども園協議会
福島県私立幼稚園・認定こども園連合会　福島県私立中学高等学校協会　福島県公立学校退職校長会
福島県 PTA 連合会　福島大学人間発達文化学類同窓吾峰会

【午前の部】全体　（事前に会場 ZoomURL をお送りします。9:30 から開場しています。）

10:00～10:10　主催者挨拶　初澤　敏生（福島大学人間発達文化研究科長）

10:10～12:00　基調講演　子どもたちの豊かな学びを実現するための「教育評価」

― パフォーマンス評価をどう活用するか ―

講師　西岡　加名恵　先生 京都大学大学院教育学研究科 教授
Ph.D.(Education)(University of Birmingham)

【研究領域等】教育方法学（カリキュラム論、教育評価論）
【略歴】
京都大学大学院教育学研究科修士課程修了、英国バーミンガム大学にて Ph.D.（Ed.）を取得。鳴門教育大学講師、京都大学大学院教育学研究科准教授等を経て、2017 年より同教授。現在、日本教育方法学会理事、日本カリキュラム学会理事、教育目標・評価学会理事。文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」委員（2012 年 12 月～2014 年 3 月）など。

【主な著書】
単著『教科と総合学習のカリキュラム設計』（図書文化、2016 年）、共編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（日本標準、2019 年）、編著『高等学校　教科と探究の新しい学習評価』（学事出版、2020 年）など。

【講演概要】　学校のカリキュラム改善を進める上では、各学校のカリキュラム・マネジメントが重要です。本講演では、各学校において子どもたちの豊かな学びを実現するために、パフォーマンス評価をどう活用できるかについて検討します。パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法の総称です。具体的には、パフォーマンス課題やポートフォリオ評価法などがあげられます。また、パフォーマンス評価を効果的に活用しつつカリキュラム・マネジメントを進めるための教員研修の在り方についても考えます。

12:00～13:10　昼　食　・　休　憩（参加者各自の計画で･･･）

【午後の部】グループごとに

（6人程度のグループに分かれます。お知らせしている ZoomURL（午前の部と同じ）に入室のうえ、ブレイクアウトルームから、お知らせするテーブル番号を選択し 13:00 までに入室ください。終了はグループごとになります。）

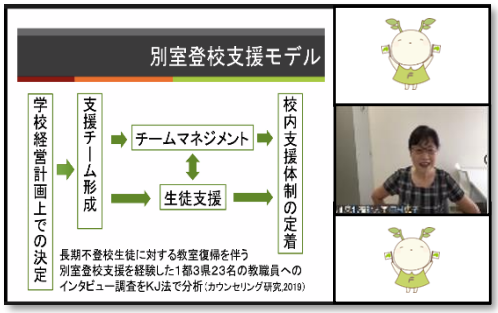
13:10～16:00　ラウンドテーブル

「教育実践福島ラウンドテーブル」は、福島大学教職大学院生や県内外の国公私立保育所・幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、特別支援学校、教育委員会等に勤める教職員、さらには保護者や市民の皆さんが、それぞれの立場による実践や悩み等を交流する場「学びのコミュニティ」です。日々の教育活動や教育に関して感じていることや課題、悩み等について自由に語り合います。
今回は Zoom で少人数グループに分かれ、教職大学院生の報告や参加者の実践等をもとに交流を深めます。

ラウンドテーブルの魅力　～参加された方々の感想：参加者アンケートから～

◆　**2022 年夏8月開催の参加者アンケートの概要**〔回答数（回答率）→基調講演：86 人（63.7%）、ラウンドテーブル：79 人（75.2%）〕

①　4段階評価　「参加されていかがでしたか」について、 基調講演：「大変良かった」81.4%・「良かった」18.6%。
ラウンドテーブル：「大変良かった」87.3%・「良かった」12.7%と、これまでと同様に高い評価をいただきました。

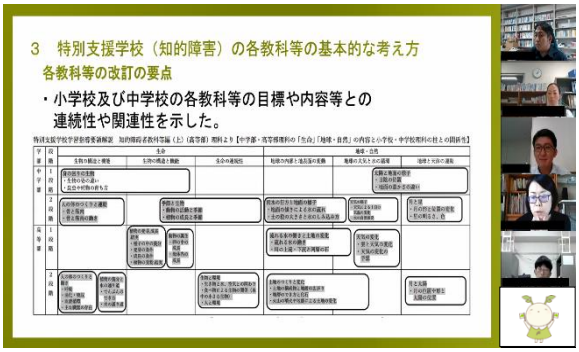


②　基調講演の感想

●支援モデルが事例を通して大変わかりやすかった。チーム支援という言葉は、よく学校の中で使われているが、それぞれの役割とその関係、伝達がポイントになっていることや支援する中での困っているところへのスーパーバイザーの重要性がよく分かった。
●実例をもとにチーム支援の説明がなされており、ドラマのように惹き付けられて聴き入ってしまった。高校籍の教員だが、中学校で不登校だった生徒が高校に入ったとき、どのようにアセスメントしていったらいいか、校内体制をどのように作っていったらいいか、大変参考になるお話だった。

③　ラウンドテーブルに参加して

●授業実践についての対話はもちろん、そこから話が膨らんで、学級経営の在り方等についても意見を交わすことができた。異なる校種や立場で自由に話し合うことができたので、自分にはない視点からの話を聞いたり、ICT を使った新しい教育方法について学んだりすることもできた。
●子どもたちや保護者などから見える先生の姿以外の様子を知ることができて有意義だった。SSW として、先生や学校をどのようにサポートできるかたくさんのヒントを頂いた。特に、ミドルリーダーの先生が多く、チームづくりや調整など、どのように関わっていくか参考になる話しが多かった。思い切って参加させて頂いてよかった。



報告者募集！（ミニレポート報告）

● 普段取り組んでいることや悩み、疑問など、グループ協議の中で実践報告として話題を提供してくださる方を募ります。報告資料は、ペーパー1枚程度の簡単なものでも結構です。報告資料の取り扱いについては、後日お知らせします。当日は、本学の院生20名も、これまでの学びの道のりを報告します。

◇　参加申し込み方法　◇

本学の人間発達文化学類 Web ページ（http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp）の「２０２３春　教育実践福島ラウンドテーブル」の申し込みフォームから、２０２３年 １ 月 ３１日（火）までにお申し込みください。　ご不明な点はお問い合わせ先にメールでお知らせください。
QR コードから Web サイトにアクセスできます。＊今回は Zoom による開催となります。
事前に参加方法についてお知らせしますので、メールアドレスを必ず記載願います。
安心して気軽にご参加ください。

【お問い合わせ先】　　福島大学人間発達文化学類支援室
TEL：　024-548-8103　FAX：　024-548-3181　Mail：　ningen@adb.fukushima-u.ac.jp